

平成 25 年度 私立短期大学図書館情報担当者研修会

C分科会報告

会 場：アルカディア市ヶ谷・7階 吉野
担当委員：松尾・関川・田中委員

C分科会では事前アンケートで「教員と図書館の協働」について特に関心があると回答のあった参加者の内14名（教員1、職員13）と運営委員3名が集まり、各館での取り組み事例の紹介によるノウハウの共有化や各自が抱えている課題の解決の手がかりを模索するため、以下の手順で意見交換を行った。

1.オリエンテーション：分科会の進行方法についての説明（松尾委員：約10分）

委員会で事前に作成した「分科会の進行とファシリテータの役割（マニュアル）」をもとに分科会の趣旨、討議時の留意点、タイムスケジュール等を説明。あわせて、今後の図書館運営にとって実りあるものとするためにお互いの活発な意見交換に協力してほしいとの依頼があった。

2.自己紹介および、各館での取り組み事例や課題等の紹介（参加者全員：約90分）

前日の名刺交換会でも自己紹介を行ったが、討議にあたっての素材をランダムに提供してもらうため、1人3分を目安に、所属する短大の現況、図書館での取り組み、収集したい情報、図書館運営上の課題など概ね以下の項目について紹介してもらった。

カテゴリー	各館の取り組みや課題など（抜粋）
教員との協働	・教員主導の資料検索指導を実施 ・図書館の情報に関わる授業資料を図書館員と協働で作成 ・ILLの受付件数等図書館の活動をPR ・学生による選書会や読書感想文コンクール、音楽コンサートの協働運営 ・教員も多忙で協働の働きかけが困難 ・閲覧席を使った授業は学内規定上の制限がある
利用活性化策	・ビデオ上映会の館内開催 ・学生への案内はひらがなを多用 ・展示の充実（ベストセラー、スポーツ漫画、ライトノベル、シラバス掲載図書、地元紹介資料、各県の地方新聞など） ・図書館の学内的な地位向上のためにも利用率UPが不可欠 ・学生の呼びみに苦戦（学生が図書館に来ない） ・他館の成功事例の水平展開
利用指導やガイダンス、ツアー等	・図書館関連初年次教育を授業の一環として単位認定 ・情報活用法の講義を授業の1コマとして図書館員が実施 ・教員の依頼に応じたゼミ単位での情報検索を指導 ・フリー参加の館内ツアーを実施 ・PC50台を使ったガイダンスを実施 ・2年次以降の利用指導は希望者対象だが集客に苦慮 ・ガイダンスの参加率UPの方策を模索中
その他（設備や人員等）	・グループ学習室の不足 ・図書館の立地が学生の動線に合っていない ・ラーニングコモンズやアクティブラーニングへの対応を模索中 ・キャンパス移転にともなう廃棄や移動作業に忙殺 ・人員のスリム化への対応や図書館員のスキルアップ方法を模索中 ・地域開放に向けたセキュリティ面での対応方法を模索中

3.メンバー間での質疑応答、フリーディスカッション（参加者全員：約60分）

参加メンバー共通の関心事である「教員との協働」に関する事柄を中心に、紹介のあった各館の取り組みを素材とした質疑応答により、自由な意見交換を行った。

Q→質問・問題提起など	An→回答・補足・関連意見など	(抜粋)
Q:教員に対しての図書館ガイダンスは実施しているか？	A1:異動してきた専任教員に対し、全学ガイダンスの中で30分実施 A2:図書館システムのリプレース概要や新契約のデータベースを紹介。ただし、出席は数人 A3:FD活動のプログラムの中に図書館ガイダンスを組み込んでいる	
Q:教員は学生対象の図書館ガイダンスに立ち会っているか？	A1:新入生対象のガイダンスへの立会いは必須。ゼミ単位のものも教員の任意 A2:授業の一環としてのガイダンスを位置づけているため、立会いは必須 A3:新任の教員は立会い必須。ベテラン教員は任意 A4:教員が立会うことは説明する図書館員にとって重圧になるが、内容の充実につながる。	
Q:図書館員が教員へ協働を働きかけることに抵抗感があるが、これを払拭する方法は？	A1:教員と事務職員が対等な対場であるという組織風土の醸成が後押しになる A2:図書館側の企画の完成度を高め、協働する内容を具体的かつ明確に提示する A3:教員間でも図書館に対する認識は個人差がある。協力的な教員から働きかける A4:学長や学科長の後押しが有効。図書館長による教授会等でのPRも効果的 A5:レファレンス等を通じて日頃からの教員とのコミュニケーションの蓄積も重要	
Q:関連する教学組織（図書委員会等）と協働の方法は？	A1:選書の委託（学科での選書結果の不足分の選書など） A2:委員長による教授会等での図書館のPR活動	
Q:利用促進策としての「読書感想文コンクール」の実情と効果は？	A1:参加者は3～5人/年。優秀作品は冊子にして関係者に配布 A2:審査も含め指導に手間はかかるが、学生の読書力や文章力の向上に繋げられる	
Q:教員との協働にかかわる業務とルーチンワークとの両立の方法は？	A1:教員への働きかけは時間も手間もかかる。図書館員個人のモラルに依存する部分もある A2:装備やカウンター業務等のアウトソースや学生バイトの活用等の工夫も必要	
Q:館内での飲食についての対応は？	A1:ふた付き容器に入った飲み物に限って認めている A2:海外では館内に寿司コーナーを設定しているケースもあり、わが国でも見直しが必要	

4.まとめ（松尾委員：約5分）

「教員との協働」に関する事柄を中心に活発な意見交換ができたことに対し、司会者から謝辞が述べられ、あわせて分科会の席上で消化できなかった部分については、後日メール等で相互に確認しあうことが提案された。最後にお互いの健闘に対し、ねぎらいの拍手でこの会を終わろうという副委員長の提案に全員が賛同。参加者全員による拍手をもって閉会となった。

以上